

行革の柱

第2期行財政改革プログラムでは、8つの柱に分類された57項目の取り組みがあります。では、その内容を見てみましょう。

- I 町民参加の推進**
 - ①町民との協働 ▽町民参画（P I）手法 ▽住民意見の集約窓口設置
- II 情報公開の推進**
 - ①町ホームページ充実 ▽例規集のデータ化
 - ②情報社会基盤（インフラ）の整備 ▽光ファイバー網の加入促進
- III 行政システムの効率化**
 - ①行政組織の整備 ▽課・係の統廃合 ▽職員数の管理 ▽学校・保育園施設の検討
 - ②組織の見直し ▽消防組織の強化 ▽嘱託区の再編 ▽町行事の整理・統合
 - ③人件費削減 ▽職員手当 ▽臨時・非常勤職員
 - ④行革プログラム推進体制 ▽事務事業評価システム ▽外部事務事業評価 ▽行財政改革実施プログラム ▽行財政改革状況の公表
- IV 町民サービスの向上**
 - ①窓口業務の充実 ▽受付業務の簡素化・効率化

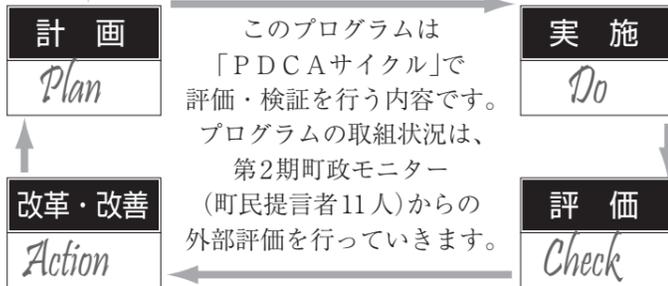
外部評価と実績の公表

第2期行財政改革プログラムは、目標（数値）を明確にして、評価・検証を行っていくことを前提としています。そして毎年、実施状況を町政モニター制度（町民提言者）からの外部評価と実績の公表を行っています。

このプログラムは、「住み良さの実感できるまちづくりを目指して」と目標に掲げています。行政の改革と実践、そこへ住民の関心と参加によって、未来の明るい町の姿が描かれていきます。

- V 職員の資質向上と人材育成**
 - ①人事評価制度の導入 ②サービス向上宣言
 - ③職員研修制度の確立 ④職員の意識改革
- VI 財政の健全化**
 - ①歳出削減 ▽内部管理経費 ▽補助金の見直し
 - ②財源不足 ▽財政調整可能基金の確保
 - ③自主財源 ▽遊休財産の処分 ▽企業誘致の推進 ▽ゴミ袋の料金の見直し ▽町税の徴収率アップ ▽社会教育施設利用料の見直し ▽広報などの広告掲載 ▽ふるさと寄附金への呼びかけ ▽保育料の見直し
 - ④財務書類の積極的公開
- VII 公営企業改革**
 - ①事業経営健全化 ▽水道、下水道、緑の村の使用料の見直し
- VIII 民間活力の導入**
 - ①指定管理者制度の導入 ▽スポーツセンターの指定管理者
 - ②外部委託（アウトソーシング制度）の導入 ▽窓口業務 ▽カルチャーセンター管理運営
 - ③民営化の検討 ▽公共施設の民営化

[期間] 22年10月～27年3月



▶問い合わせ 役場企画財政課 ☎282-1263
 [決算] 財政係 [行革] 企画振興係

御船町らしい未来のために



2期行革の目玉

平成22年10月から始まった「第2期行財政改革プログラム」では、前期を上回る57項目から構成されています。役場内部の改革に重点を置いて、住民満足度を高めていく仕組みが特徴です。

そこで基本理念を①情報公開 ②意識改革 ③運営効率―と設定。期間内の27年3月31日までにより多くの成果を目指します。

また、第2期行革で重要な位置づけが▼情報公開と町民参画▼職員意識改革―で、つまり町民と職員です。▼

第2期町政モニターの
緒方 栞 さん（高木）



行革プログラムは役所言葉が多くわかりにくい気がしました。しかし、町民も関係や関心のある分野の勉強も必要だと感じます。そのためにも、行政は早めに情報を提供して、町民意見やアイデアを募ることが大切だと思います。

御船の底力 意識共有化

追求する 住民の満足度。

約1年を費やして策定した「第2期行財政改革プログラム」。前期を上回る改革の実践内容が明らかとなり、ついに始動。これから4年6か月、行政が本腰を入れて取り組む、そのプログラムの実態について紹介します。



9月29、30の両日に開かれた第2期行革の職員説明会。担当の企画振興係と行革プロジェクトグループ員から、プログラム内容が報告。職員全体へ意識の改革と共有を求めた(写真上)



行政情報を発信するため、役場ロビーに設置された「情報公開コーナー」。予算や決算、議会、監査、入札などの関係書を誰でも自由に見られるほか、パソコンも利用できる(写真右)

- 意識改革 (スマイル)
- 運営効率 (スリム&バランス)
- 情報公開 (パートナーシップ)

町民の声と職員の意識

これからの地域づくりのポイントは、町民一人一人の声です。そのためにも計画段階から行政情報を公開して、町民の意見を計画づくりに反映させる行政運営が必要です。

また、質の高い住民サービスを提供するためには職員の意識改革もカギを握ります。職員間の連携や外部研修への派遣、お茶くみの廃止などを積極的に進めます。これまで当たり前とされたことを時代の視点で見直し、個人と組織の活性化に努めます。▼

第2期町政モニターの
楠田 優子 さん（七滝）



役場内の改革は即実行できるものが多いと感じます。行革は削減ばかりでなく、職員意識や全体の統一した行動で収入を増やすことも大切です。そこで御船町独自のアピール方法など、プラス要素に重点を置いた前向きな考えが欲しいですね。